

あ ゆ み



サビエル高等学校後援会

山口県山陽小野田市掃山三丁目5番1号

サビエル高等学校スクールモットー
For Others, With Others
他者のために、他者とともに

◆ 目 次 ◆

サビエル高校創設70周年に 向けての飛躍	後援会会长	西村 公一	2
同窓会誌「あゆみ」50周年 を迎えて	理事長・校長	小濱 富美代	3
今年度のご挨拶	同窓会会长	嶋田 千里	4
[過去の私と今の私と 未来の私]	生徒会長	石橋 梨愛	6
50回記念特別寄稿	第10期卒業生	重村 典子	7
	第20期卒業生	今井 美和	
	第21期卒業生	溝部 真有美	
	第24期卒業生	沖西 啓子	
	第42期卒業生	馬渡 升太	
	第46期卒業生	山本 航	
2025年度 教職員一覧	· · · · ·	· · · · ·	14
2024年度 決算報告	· · · · ·	· · · · ·	17
サビエル高等学校後援会 会則	· · · · ·	· · · · ·	19
2025年度後援会役員一覧	· · · · ·	· · · · ·	20

サビエル高校創設70周年に向けての飛躍



サビエル高等学校後援会 会長 西村 公一

平素よりサビエル高校後援会に対して格別のご支援、ご協力を賜り感謝申し上げます。今年6月9日には久しぶりに後援会役員会を開催し、出席頂いた皆さんから様々なご意見を頂くことができました。

今回「あゆみ」50号を発刊することができましたのも、これまでサビエル高校に関わってくださった全ての皆様のお陰と、心から感謝申し上げます。

昨年から小濱理事長が校長を兼務され、教頭友廣先生、事務長吉富さんを中心にして、創設70周年に向けて教職員とともに本校が更なる飛躍をすべく様々な改革案を実行しているところです。

まずは来年度入学生から単位制への移行です。生徒一人一人の個性を大切にして、2年生からは生徒自身が進路や自分の興味や得意分野に応じて科目を選択できる制度です。伸び伸びと個性豊かな生徒に育ってくれることを期待しています。

また、本校の特長の一つは、学生寮が整備されているところです。寮での共同生活を通じて、自主性、協調性を育むことができ、遠方の生徒でも安心して学業に専念できるというメリットがあります。かつては県内各地、多数の生徒が利用していましたが近年減少傾向にあることが残念です。もっと「学生寮のある学校」をアピールしていかなければなりません。

私の記憶では、十数年前までは県内主要市に同窓会や後援会の支部組織があり、そこで本校への受験生を掘り起こすという役割を果たしていただいていたと思います。その意味で今後そういった地方組織の再生も大切ではないかと考えています。

本校の教育理念、教育内容については他校にない素晴らしいものがあるにもかかわらず、それらの魅力を発信する努力が欠けていたことは事実です。あらゆる手段を通じて広く伝えていく事がまず重要です。

これらの改革実現にはかなりの資金が必要となりますので、昨年度から「サビエル高校改革プロジェクト支援基金」を創設して、本校関係者のみならず近隣の企業、個人を問わず広く支援をお願いしているところです。

後援会の皆様には改めてご寄付のお願いをすることになりますが、サビエル高校の更なる発展のために、趣旨をご理解の上ご協力よろしくお願ひいたします。

令和7年12月

同窓会誌「あゆみ」50周年を迎えて



理事長・校長（兼任） 小濱 富美代

同窓会誌「あゆみ」が、このたび50周年という大きな節目を迎えました。半世紀にわたって紡がれてきた紙面は、卒業生お一人おひとりの歩みと母校への想いを結ぶ温かな架け橋であり、時代が移り変わる中でも変わらぬサビエルスピリットを伝え続けてくださいました。その長いご尽力に、心より感謝申し上げます。

聖書において「50年」は、旧約に記された「ヨベルの年」に由来し、解放・回復・新しい始まりを象徴する特別な数とされています。またカトリック教会の歴史においても、50年を契機とする「聖年（Jubilee）」は、巡礼・ゆるし・和解・刷新の恵みが豊かに示される年として、大切に祝われてきました。

この恵みの節目を迎える中で、本校は来年度より単位制を導入いたします。これは、カトリック教育が大切にする「あなたはあなたのままでいい」という、一人ひとりの尊厳をより大切にするための取り組みです。生徒が自分の可能性に気づき、自らの道を選び、伸ばしていくけるよう、サビエルらしい教育をこれからも進めてまいります。

そして近年は、卒業生の皆さまのお子さんやお孫さんが入学してくださることが増え、私たち教職員にとっても本当にうれしい出来事となっています。「サビエルで学んでよかった」という思いが世代を超えて受け継がれていることに、深い喜びと励ましをいただいております。どうぞこれからも、ご家族の大切なお子さん、お孫さんに、このサビエルの教育をつないでいただければ幸いです。

サビエル高校は2032年の創立70周年へと歩みを進めています。一人でも多くの生徒がサビエルの教育にふれ、自分らしく生きる力を育むことができるよう、さらに環境を整え、未来を見つめた教育を続けてまいります。そのためにも、卒業生の皆さまの温かな応援とお支えが、これからサビエルにとって大きな力となります。どうか、ともに「次の70年」を創っていただければと願っております。

サビエル高校は、皆さまの祈りと支えのうえに立っております。50年の節目を迎えた同窓会誌「あゆみ」が、これからも世代を超えて母校と卒業生をつなぎ、希望と励ましを分かち合う場となることを願ってやみません。そして、この記念の年が、新たな恵みの出発点となるよう、心から祈りを込めてお祝い申し上げます。

令和7年12月



今年度のご挨拶

同窓会会長 嶋田 千里 (35期生)

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。今回あゆみは発刊50回目を迎えました。

このあゆみは初代校長のアナ・マリアシスターが卒業生と学校との繋がりの1つとして始められたものです。残念ながらそのアナ・マリアシスターは今年の2月にご逝去されました。

5月に行われましたシスターを偲ぶ会には、多くの卒業生の皆様、そして懐かしい先生方にお集まりいただき、誠にありがとうございました。改めまして厚く御礼申し上げます。

私はシスターとは直接の面識はございませんが、会の準備を進める中で、シスターのお人柄に触れる機会をいただき、大変素晴らしい方だったと感じました。

60周年記念式典で上映されたビデオの中で、アナ・マリア・シスターは「一つの家族を作りたい」という想いでサビエル高校を設立されたとありました。

その言葉に触れたとき、サビエル高校が本当に一つの大きな家族のような場所であり、卒業後も変わらない友情や先生方との絆が続いているのは、シスターの精神が今もサビエルに息づいているからだと改めて感じました。また、この「あゆみ」も家族の絆を繋いでいくためのものとして始められたのではないでしょうか。

今年は残念なお知らせが続き、7月には学校設立当初からサビエルで教えてこられたモンセラート・シスターがお亡くなりになりました。

モンセラート・シスターは、私が在学していた頃は副校長先生で、校内ですれ違う際にはいつも笑顔で挨拶を交わしてくださったことを覚えています。シスターのスペイン語の授業をとっていた友人はシスターはとても優しくて、英語でも日本語でもないスペイン語の授業はいつもおまけをたくさんしてくれていた。とシスターのエピソードを教えてくれました。

お二方ともサビエルにとって、そして私たち卒業生にとってかけがえのない存在でした。これからはきっと天国から、私たち卒業生とサビエル高校を温かく見守ってくださることと思います。

最後になりましたが、サビエル高校は来年度より大きな変化の時を迎えます。卒業生の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年度の「あゆみ」の最後に、アナ・マリア・シスターが卒業アルバムに記されていたお言葉を、皆様にもお届けしたいと思います。
皆様の一年が、より良く実り多いものとなりますようお祈り申し上げます。

令和7年12月



フェイスブックサビエル高校同窓会ページ
<https://www.facebook.com/>
サビエル高校同窓会-190151575055076



[過去の私と今の私と未来の私]

生徒会長 2年 石橋 梨愛



私自身、今自分が生徒会長であることに未だに驚いています。大勢の前に立って話をしたり、イベントを自ら進んで企画・実施したり、代表の言葉を任せられたりするなど、中学生の時には想像もしていなかった充実しすぎているJKライフを送っていることに我ながら驚いています。

中学時代の私のままであるなら、今のような充実した生活を送ることはできていません。中学校時代の私は、失敗を恐れていて「やりたい」とは思っても、身体が追いつかず結局行動に移すことができず後悔したり、他人からの評価を気にしすぎて個性を出すことができなかったり、周りの人に嫌われたくないが故に他人の間違いを指摘することができなかったり、と自分の思いや行動に対して自信を持つことができず、周りとの違いがないように、個性を出さないように目立たないようにといった生活を送っていたからです。

そんな臆病だった私が、今現在は生徒会長。学校の代表であり、多くの生徒から1番と言って良いほど目立つ立ち位置にいます。私がこの場所に立つことができたのは、何故なんだろう。未だに自分の中ではっきりとした答えは出でていませんけれど、サビエル高校への進学を決めたことが、私の充実しすぎている人生の第1歩に繋がったことは確かであると言えます。中学校の私も本当の私ではあるけれど、今の私がまさに正真正銘本物の私であるからです！

そんな私の人生を大きく変えてくれたサビエル高校の、入学志望者が少ないことに驚きが隠せません。こっつりんなにアットホームで、先生方は様々な個性をお持ちで普通の雑談さえも面白くて、多種多様な国籍の人たちと出会い、笑い合い、国境を超えた特別な経験ができる場所であるのにその事実を知っている人が少なすぎる！

そこで、せっかく生徒会長なのだから、「やりたいことはやる」精神で微力ながらも、生徒会活動の1つとしてサビエル高校の魅力や現状などを多くの人に伝えていくことができたらと思っています。

改革している今だからこそできることや、生徒会メンバーの個性をフル活用した企画の実施を通して多くの人との交流をしていきたいです！勉強との両立はものすごく難しくて、毎日が睡魔との激しい戦いであるけれど、それを乗り越えて悔いのない、本物の自分を出し切った1年間にしていくように、これからも前進し、過去の私の経験を粗末にせず大切にしながら、今の私をより良いものに構築し続け、未来の私ための材料を沢山培っていきたいです！！！

アナ・マリア・ディアス校長先生との15分



第10期卒業生 重村 典子

今年4月に訃報が届き、添えられたお写真に万感の想いが湧きました。

葉書をそっと抱きしめて、少し鼻にかかり、こもり気味な静かなお声を、鮮明に思い起こしました。と言うのも、このお声が、私の宝物です。

入学後の初めての実力試験は、53人中の51番で、田舎の中学校の優等生の思い上がりに打ちのめされました。その後、努力し、一学期試験は11番になりました。が、すぐにまた、劣等生に逆戻りしました。諦めそうになりながらでも、努力を続けられたのは、夏休み前に行われた「校長面談」の15分間のお陰です。

近寄りがたい程に高貴で美しい校長先生。畏敬と緊張で押し潰されそうな入室でした。

着席後、お顔も見れず、足元に目を落としたままお声を待ちました。何もおっしゃらないので、どうしようと考えていると、微かに、鼻をすする音がして、思わず顔をあげました。

ハンケチを鼻にあて、涙を浮かべてらっしゃいました。戸惑う私に、あのお声で、「重村さん、私は感動しています。お勉強、よく頑張りました。」と。

母子家庭の私が、母以外の人の深い愛を感じたのは、初めてでした。幼い日に、父を亡くし、幼いなりにも背負っているものがあり、強く込み上げるものがありました。泣き出さないように、口を一文字に結び、お言葉には首を縦か横に振るだけでした。最後に、「これからも、ずっと貴女を見ていますよ。」と。

この退室後から、今日まで、駄目でも、駄目でも、諦めず努力を続けられるのは、校長先生との面談の15分のお陰です。

言い尽くせぬ、書き尽くせぬ感謝でいっぱいです。訃報で改めて、また、お力をくださいました。ご冥福をお祈りします。有難うございました。

末筆で不謹ではございますが、「あゆみ」発刊をはじめ、より良い学校の為に、ご尽力下さっている教員、職員、関係者の皆々様に深くお礼申し上げ、益々の発展を祈念いたしております。

あゆみ創刊50周年に寄せて



第20期卒業生 今井 美和
(旧姓: 森藤)

この度は、あゆみ創刊50周年記念号の発刊を心よりお祝い申しあげます。

今、懐かしく思い出しますと、私には、サビエル高校に不思議なご縁を感じずにはいられないものがあります。第一志望校受験に失敗し、入学が決定した時には、大きなショックと共にカトリックの女子校という未知の極みのような不気味さで、卒倒しそうでした。

とはいものの、実際に入学してみると、サビエル高校独特の行事や授業があり、興味深く参加し、楽しんでいる自分がいました。その一方で、私はなぜこの高校に来てしまったのだろうというような苦しい思いの狭間で悶々としながらも、無事卒業を迎え、これでカトリックと関わることもないと思ったものです。

でもそれは私の勝手な思い違いでした。社会人になって宇部市内で就職し、同じ会社で働く関東出身の彼氏が、偶然にもカトリックの信者で、なんとサビエル高校のシスター達を知っているというのです。これには本当に驚きました。その彼の影響で私もカトリック宇部教会に通うようになり、結婚直前に洗礼を受けることになったのです。

私の実家は仏教なので、勝手に洗礼を受けていいものかと悩み、家族に相談したところ、代表して祖母が「手を合わせるということはとても大事なこと。合わせるお相手が、あなたは神さん、私は仏さん、それでええじゃないかね。」と笑顔で認めてくれて、本当にうれしかったことを覚えています。

結婚してから子供が4人産ましたが、全員カトリックです。子供たちが小学校を卒業するあたりまでは毎週日曜日に家族そろって教会に通い、随分とお世話になりました。子供たちは残念ながら一人もサビエル高校には入学しませんでしたが、また偶然にも教会のお知り合いの方から私にサビエル高校事務室での仕事の紹介があり、そのご縁で50歳手前あたりから約10年間働かせていただきました。

考えてみると、人生今まで大変なこと也有ったけれど、私は、神様が与えてくれたご縁とともに、知らないうちに神様に導かれ、助けられてここまで生かされてきたのだなあという感謝の気持ちが沸々と湧いてくるのです。これからも、そんな私の不思議なご縁のサビエル高校を暖かく見守っていきたいと思います。

サビエル高校と後援会のさらなるご発展を心よりお祈りいたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。



「サビエルスピリット」

第21期卒業生 評議員 溝部 真有美
(旧姓:曲)

サビエル高校を受験したのは、もう40年以上前のことです。早朝5時、車中から見た2月の空には、キラキラと美しい星が瞬いていました。農業で生計を立て、姉と私を育ってくれた両親。父は、試験が終わるまで車中で農機具の手入れをしながら待っていました。行ったこともない小野田市、体育館には出会ったこともない外国人スター、あの日の私は正に「アルプスの少女ハイジ」状態でした。

入寮すると、同じように他市から一人でやってきた同級生たちがいて、「ハイジ」にはすぐに友達ができました。田舎では習ったこともない英語の学習内容には心底苦労しましたが、「一人じゃない」から頑張ることができました。そして、ナイフとフォークでいただく寮の朝食も、「ハイジ」は山奥での原体験を生かして果物を器用にむき、何とかこなしたのでした。

先生方の溢れる愛情を受け、後に小学校教員となった私は、仕事上、何人かのサビエル卒業生と出会ってきました。総合支援学校の先生、障害者相談事業所の相談員さん、外国人の日本語教育を支援するスタッフの方。皆さん、根底にはサビエルスピリットが流れていきました。最近、20年も前から一緒に仕事をしてきたNPO法人代表のお子さんが、サビエル高校の卒業生だったと知りました。代表はしみじみとおっしゃいました。「そうか、あんたもサビエルの卒業生か。」「あの学校は、うちの子供達に人生で大事なことを教えてくれたよ。」そう、何度もつぶやかれました。

あの時の「ハイジ」は3人の子供の親となり、後数年で退職を迎えようとしています。多様な価値観、目まぐるしい社会の変化に、ふと立ち止まることがあります。「私達は何処へ向かおうとしているのだろう?」

そんな時、受験日早朝に見た瞬く星と、サビエル高校で学んだ日々を思い出すのです。

For Others, With Others~他者のために、他者とともに~あゆみ50号発行、おめでとうございます。

素敵な未来のあなたに会えるために



第24期卒業生 沖西 啓子
(旧姓:重田)

私がサビエル高校に在学していたのは、今から40年ほど前のことである。生糸の小野田市民だったが、両親が実家のあった山口市に転居したため、山陽小野田市に行く機会はほぼなくなった。サビエル高校のことを思い出すのも自宅に「あゆみ」が届いた時くらいだった（ごめんなさい）。

高校での3年間に初めて経験したことがたくさんあった。ボランティア活動、海外への修学旅行、老人ホームへの訪問、海外からの留学生、献血、聖書研究部などなど。サビエル高校で多くの経験をさせてもらったことは、振り返ってみれば、現在の私に繋がっていると感じることが多い。

「女性でも一生続けられる職業を選択したらいい。」と当時の校長先生に言われ、今の職業に就くことにした。そのような助言を校長先生に直接頂けるのは、サビエル高校だからこそだと思う。

また、高校で初めて経験した献血は今では私にとって社会貢献の一つである。先日、山口市の実家に帰省中、時間ができたので、90回目の献血に行くことにした。献血センターでふと掲示されていたポスターに目が留まった。

「探究活動で献血活動を応援しています」というサビエル生が作成したポスターだった。高校時代に初めて経験した献血を続けていたら、偶然にもサビエル生の作品にたどり着くことができた。今の生活とサビエル高校での経験が繋がっていると感じた。

サビエル生のみなさん。みなさんが今、経験していることは、何十年か後のあなたに、きっと繋がっていきます。その時の素敵なかみのあなたに会えるのを楽しみに、今をしっかり楽しみ、貪欲に学んでほしいと思います。サビエル生の先輩として、心より皆さんを応援します。

<90回目の献血での出会い>

サビエル高校2年の大熊と橋本です
私たちは学校の探求活動で献血推進活動を行っています
その活動として貧血改善レシピを掲載したポスターを制作しました
このポスターがどのような経緯でつくられたのか紹介します！

探究活動で献血活動を応援しています！

【献血推進活動について】

- まずインターネットで献血に関する情報を集め、夏に行われた高校生献血サマースクールに参加しました。
- 献血セミナーや模擬献血体験などで献血についてより詳しく知ることができました。
- その後は献血推進作成への応募、献血ボランティアへの参加などを行いました。



【ポスター制作】

- 実際に私たちが献血に行った際基準を満たせず、献血が出来ませんでした。
- その体験をもとに調べたところ献血ができない原因の1つに貧血があることを知り、貧血改善レシピの作成を計画しました。
- しかし私たちには栄養に関する専門的な知識がないため、姫井保育園の栄養士の大坪さんに協力していただきました。
- 料理は自分たちで実際に作り写真を撮ってレシピに掲載しました

【献血推進活動をしてみて】

- この活動を通して自分たち自身も献血への理解を深めることができ、様々な方面から献血について発信することができたと思います。
- このポスターを見て鉄分をしっかりとり健康的な食生活を意識してもらえると嬉しいです。
- そして献血の輪が多くの人広がっていってほしいなど思います。

For Others , With Others



第42期卒業生 評議員 馬渡 升太
(旧姓:土井)

「あゆみ」創刊50周年、心よりお祝い申し上げます。
サビエル高校卒業生として、そしてこのたび評議員を務
めることとなり、改めて母校の歩みと向き合う機会をいた
だいたことに、深い感慨を覚えています。

私がサビエル高校で過ごした3年間は、学びだけでなく、人としての土台を築く大切な時間でした。朝の礼拝で心を落ち着け、自分と向き合う静かなひとときを持てたこと。文化祭では仲間と力を合わせ、笑いあり涙ありの準備期間を過ごしたこと。進路に迷ったときには、先生方が親身になって耳を傾け、励ましてくださったこと。どれも今の私を形づくる大切な記憶です。

卒業後、社会に出てからも、サビエルで培った「For Others, With Others ～他者のために、他者とともに～」の精神は、私の行動の指針となっています。人と向き合うとき、困難に立ち向かうとき、ふとあの校訓を思い出すことで、自分の立ち位置を見失わずにいられるのです。サビエルでの日々は、単なる学生生活ではなく、人生の根っこを育てる時間だったのだと、今になって強く感じます。

今回、評議員として母校に関わる立場をいただいたことは、私にとって大きな責任であり、同時に喜びでもあります。これまで受けてきた多くの学びと支えに、少しでも恩返しができるよう、微力ながら尽力してまいります。母校の未来を共に考え、次の世代へとその精神をつないでいくことが、私たち卒業生にできる大切な役割だと感じています。

「あゆみ」は、サビエルの歴史と心をつなぐ大切な記録です。50年という長い年月の中で、多くの人の思いが綴られてきたこの冊子が、これからも在校生・卒業生・教職員を結ぶ架け橋として輝き続けることを願っています。

母校のさらなる発展と、「あゆみ」の末永い継続を心より祈念いたします。

「デザイン」



第46期卒業生 山本 航

担任が喜びを隠せない顔で封筒を持ってきたのを、病院の待合室で思い出した。

中身を確認していないが、「合格したんだな」と噛み締めた中学三年生。案の定入っていた合格通知書の指示のもと行った仮入学会場にて採寸をし、袖を通したのは、見たことがないデザインの詰襟だった。

当時「サビエル高校男子」はとても珍しかった。ひとつ上の学年の男子は2人という危惧種だったため、この小さい町では見なかったのだ。

友人も無事合格、「2人しか入らなかったらサッカーは?」と迎えた入学式。蓋を開けてみると 2007年度の男子入学者は11名。全員がレギュラー入りである。他から見ると十分レッドリスト入りだが万々歳。こうして高校生活が始まった。

当時の「1類コース」にて3年間勉学に励んだ。勉強だけでなく「愛と奉仕の精神」「真善美」の名のもとに様々なものに触れた3年間。正直 ここで知ったことが、今でも自分の中に根付いているかは胸を張って言えない。ここで「根付いている」と嘯くほうが「真善美」ではない。しかし先生たちに支えられ、学び、遊んだ高校生活は何にも代えがたい。「遊んだ」の比重がとんでもないが。

現在、私は都内の広告代理店にてデザイナー、ビデオカメラマン、アートディレクターとして広告の制作をしている。デザイナーという職に至るまでに入学とともに入部した軽音楽部での活動が大きくかかわっている。

校内外でライブをしたり、演劇部に楽曲を提供したり。そこで産まれた創作意欲が今の自分の仕事に通じているとは、胸を張って言える。

「デザイン」とは本来「目的達成のために計画・設計する行為」という。15歳の頃にぼんやりとあった気持ちが、のちの未来の自分の仕事になるきっかけを与えることは、なんら不思議ではない。先程新生児室に入った彼女も、いつかデザインする日が来るのだろうか。その計画にサビエル高校は入っているのだろうか。

2025年度 教職員一覧

(2025/12/1現在)

職名	担当	氏名	職名	担当	氏名
理事長・校長		小濱 富美代	教諭	英語	梅岡 克典
教頭	美術	友廣 洋	教諭	英語	野口 美奈子
教諭	国語	檜垣 侑揮	非講	英語	カルビ タイ・アマビ リス
常講	国語	村田 敏晴	非講	英語	嶋田 千里
非講	国語	大曲 多佳子	非講	宗教	フク・ノエリ
教諭	社会	濱崎 豊	養護教諭		太田 亜希子
教諭	社会	柏田 直人	スクールカウンセラー		大石 英史
常講	社会	上田 孝一朗	スクールカウンセラー		岡本 博子
教諭	数学	酒井 めぐみ	事務長		吉富 真二
教諭	数学	川田 康二	事務		平 園美
教諭	数学	山本 維吹	非事務		岩本 美穂
常講	数学	泉 信太郎	非事務		山県 裕美
教諭	理	東野 由起子	非寮務		田中 由佳
教諭	理	江藤 正和	非寮務		大瀧 彩子
非講	理	檜垣 毅	非寮務		高須 知世
教諭	保体	錦織 豊	非寮務		島野 加奈子
非講	保体	秋本 真之介	非寮務		河口 操江
非講	音楽	時繁 順美	校医		瀬戸 信一朗
非講	家・情	原 真美子	校医		田中 裕基
			薬剤師		松垣 裕明

※ 常勤講師：常講
 非常勤講師：非講
 家庭：家
 情報：情

理事長・校長



国語科



理科



数学科



社会科



英語科



保健体育科



芸術・情報科



事務



寮務



サビエル高校の様子は
公式ホームページや
SNSでもご覧いただけます



公式Instagram
@xavier_high_school



2024 年度決算報告

2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

◎収入の部	前年度より繰越	2, 988, 369円
	会費・贊助金	1, 508, 536円
	<u>預金利息</u>	259円
	合 計	4, 497, 164円
◎支出の部	サビエル高等学校への特別寄付金	500, 000円
	会費・贊助金振込手数料	29, 324円
	振込取扱票印字サービス料	10, 720円
	郵便振替口座残高証明書発行料	1, 100円
	普通預金口座残高証明書発行手数料	3, 300円
	消耗品	2, 418円
	奨学費	253, 200円
	あゆみ49号郵送費	327, 347円
	<u>送金手数料</u>	880円
	合 計	1, 127, 409円
*次年度へ繰越 (収入－支出)		3, 369, 755円
《内訳》	郵便振替	3, 342, 676円
	<u>普通預金(山口銀行)</u>	27, 079円
	合 計	3, 369, 755円

上記のとおり相違ありません。

2025年5月23日

サビエル高等学校後援会

会長 西村公一 印

監事 安部良枝 印

監事 西村道子 印

2024年度サビエル高等学校同窓会 決算報告

(2024年4月1日～2025年3月31日)

◎収入の部	前年度残高	4, 472, 321円
	61期生入会金	216, 000円
	預金利息	2, 065円
	合 計	4, 690, 386円

◎支出の部 残高証明書発行手数料 3, 300円

* 次年度へ繰越 (収入 - 支出) 4, 687, 086円

2025年5月23日

サビエル同窓会

会長 嶋田 千里 (35期生) 印

会計 今井 美和 (20期生) 印

サビエル高等学校後援会

会則

(名 称)

第1条 本会は、サビエル高等学校後援会と称し、事務局を同校に置く。

(目 的)

第2条 本会は、サビエル高等学校の方針に則して物心両面よりこれに協力・後援することを目的とする。

(事 業)

第3条 前条の目的達成のため、次の事業を行う。

1. 同校教育の理解と協力
2. 同校の経営及び施設の維持・改善に対する協力
3. 年一度同校のあゆみ(報告書)を発行

(会 員)

第4条 本会の趣旨に賛同の同校卒業生保護者及びサビエル会員と同校卒業生をもって会員とする。

(会 費)

第5条 会費は、**年間一口(3,000円)以上**を拠出するものとする。

(役 員)

第6条 本会は、次の役員を置く。

会長 1名 副会長 2名 評議員 若干名
監事 2名 会計 1名 顧問 若干名

(役員の任務)

第7条 前条の各役員は、それぞれ次の任務を持つ。

1. 会長は、本会を代表し、会務を処理し、会議の長となる。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に支障あるときは、その職務を代行する。
3. 評議員並びに会計・監事は、役員会を構成し、会長の諮問にこたえる。
4. 会計は、本会の会計を担当する。
5. 監事は、本会計を監査する。

(役員の選出)

第8条 会長・副会長・評議員及び監事は、総会において会員の中より選出し、会計は会長が任命する。ただし、顧問には、会長職経験者をあてる。

(役員の任期)

第9条 役員の任期は、2か年とする。ただし、再選を妨げない。

(総 会)

第10条 総会は、毎年一回開催する。

(会計年度)

第11条 会計年度は、4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 記

この会則は、昭和49年9月28日より実施する。

付 記

この会則は、令和7年6月10日より実施する。

2025年度サビエル高等学校後援会役員一覧 (敬称略)

(※は卒業生)

会長 西村 公一

副会長 升本 猛 嶋田 千里※

会計 野口 美奈子※

監事 安部 良枝※ 西村 道子※

評議員 厚見 光雄 原木 雄詩

柳屋 幸明 石田 修祥

中島 裕一 竹本 登

武原 里菜※ 内村 真唯※

岩田 真由子※ 原田 茉采※

顧問 吉屋 ひとみ※

事務局 サビエル高校後援会
事務局 吉富 真二 岩本 美穂

編 集 後 記

いつも広報誌『あゆみ』をお手に取って頂き、誠に有り難うございます。昭和50年6月1日創刊号から作り手は変って参りましたが、今年節目である昭和100年には記念すべき‘50号’となりました。50号発刊のことから、過去の『あゆみ』49冊を具に眺めて見ますと、大きさが様々（A5・B5・A4の3種類）、綴じ方も左綴じ・右綴じとあり、紙質もざら紙・中質紙・上質紙等など半世紀の歴史を感じます。しかしながら、50年間毎年欠かさず、発刊できましたのは、これも一重に卒業生、保護者、教職員ほか後援会関係者皆様方のご支援の賜物であり、改めて御礼申し上げます。

昨年度より新しい試みとして電子版にて当校HPへの掲載もさせていただきました。直接手に取る紙の温かみは薄れてしましましたが、より手軽にお読みいただけるようになったと事務局では自負しております。是非ともご家族、ご友人とご一緒にパソコンやスマホでお楽しみ下さい。なお、今回は50回記念号として全ての関係者に『紙』でお届けすることとしました。

今回の記念号は数多くの卒業生からの寄稿も頂戴し、懐かしい思いに浸る方もおられることかと思います。

次号以降も『ふるさと納税』を活用した寄付の方法を試す等事務局一同工夫を凝らしていく所存ですので、何卒叱咤激励をいただけますと幸甚です。

末筆ですが、作成にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

あゆみ 50号

発行者 山陽小野田市掃山3-5-1
サビエル高等学校内
サビエル高等学校後援会

発行責任者 西村 公一

発行年月日 2025年12月吉日

TEL 0836-83-3587

FAX 0836-83-3439

E-Mail info@xavier.ed.jp